2026 年 11 月 12 日

報道関係者 各位

株式会社 enish
（コード番号：3667 スタンダード）

「Certus IQ」と連携する暗号化 NFC 名刺「Certus Meishi」の試験提供開始に関するお知らせ

～タップごとに暗号コードを検証、なりすましの起こりにくい名刺交換へ～

株式会社 enish（本社：東京都港区、代表取締役社長：安徳 孝平、以下当社）は、2026 年 9 月 28 日に提供を開始した AI サイバーセキュリティ人材採用基盤「Certus IQ（サータス アイキュー）」と連携する暗号化 NFC 名刺「Certus Meishi」の試験提供を開始いたしましたので、お知らせいたします。

本カードは、スマートフォンをかざすたびに一度きりの暗号コードを生成し、当社サーバーがその真正性を検証します。複製されたカードや転送された URL は「未認証」として判別されるため、対面での名刺交換そのものを、なりすましの起こりにくい「検証された接点」に変えます。

オンラインの勧誘に対しては、Certus IQ はすでに送信元のメール認証結果を表示しています。本カードはその保護を対面の場まで広げ、オンラインとオフラインの双方で「相手が本物か」を確かめられる環境を提供します。



図 1　名刺にスマートフォンをかざすだけで、アプリもログインも不要

1. 本カード提供の背景

サイバー攻撃の主戦場は、システムの欠陥から「人へのなりすまし」に移っています。

- **被害の大半は人を狙う手口：**2026 年上半期の暗号資産関連のハッキング等は 344 件、被害額は約 13.2 億ドルでした。うちウォレット侵害（約 4.4 億ドル）とフィッシング（約 3.7 億ドル）で全体の約 6 割を占め、コードの脆弱性による被害（約 1.5 億ドル）を大きく上回ります（注 1）。
- **「採用」を装う攻撃：**同期は件数ベースで過去最多の半期とされ、上位 4 件のうち 2 件は、LinkedIn を通じたソーシャルエンジニアリングで署名者が侵害されたものと報じられています（注 2）。国家支援の攻撃者が、AI・暗号資産企業の採用担当者を装い、偽の面接で開発者に不正ファイルを実行させる手口も続いています（注 3）。
- **AI がなりすましを容易に：**音声クローンやフェイススワップによる経営幹部等へのなりすましはすでに確認されており、2026 年は AI 生成コンテンツがほぼすべての主要な詐欺で使われると予測されています（注 4）。

一方、人脈づくりの入口である名刺、SNS のプロフィール、QR コードは、誰でも簡単に複製・偽造できます。特に Web3・セキュリティ業界では、カンファレンスや交流会での出会いがその後の勧誘や契約に直結します。対面で受け取った連絡先が本物かどうかを確かめる手段がないことは、攻撃者にとって最も低コストな侵入口の一つです。

当社は、「検証済みの実績だけで人材を評価する」という Certus IQ の設計思想を、出会いの最初の一歩である名刺交換にも適用するため、本カードを開発しました。

2. 本カードの概要

名刺を相手のスマートフォンにかざすだけで、保有者の Certus IQ プロフィールが「認証済みのタップ」として表示されます。アプリのインストールやログインは不要です。

1. **タップ：**相手が名刺にスマートフォンをかざすと、暗号コード付きのページが開きます。
2. **検証：**当社サーバーがコードを検証し、「認証済みのタップ・日時・イベント名」を表示します。
3. **プロフィール表示：**氏名・職種に加え、Certus IQ の 5 段階の実績表示（検証済・公開済・リンク済・第三者確認・本人記載）など、保有者が選んだ項目だけを表示します。
4. **連絡先の交換：**相手は同意のうえで自分の連絡先を残せます。保有者の Certus IQ に、会った日時と場所とともに自動で記録されます。



図 2　タップ後に表示される保有者のプロフィール。表示される実績は保有者が共有を選んだものだけ

項目	内容
名称	Certus Meishi
形態	NFC チップ内蔵カード（85.5×54mm）＋Certus IQ のタップページ
搭載チップ	NXP Semiconductors 社 NTAG 424 DNA（注 5）
対応端末	NFC 対応のスマートフォン（非対応端末は QR コードから Certus IQ へ）
対象	当社担当者による試験運用ののち、Certus IQ のベータ利用者へ順次拡大
対応言語	日本語、英語
利用料金	試験提供期間中は無償
試験提供開始日	2026 年 11 月 12 日



図 3　NFC 非対応の端末では、カードの QR コードからアクセス

3. セキュリティの特徴

本カードは「見た目を似せても、中身は複製できない」ことを前提に設計しています。カードの印刷や QR コードは誰でも真似できますが、チップが生成する暗号コードは真似できません。

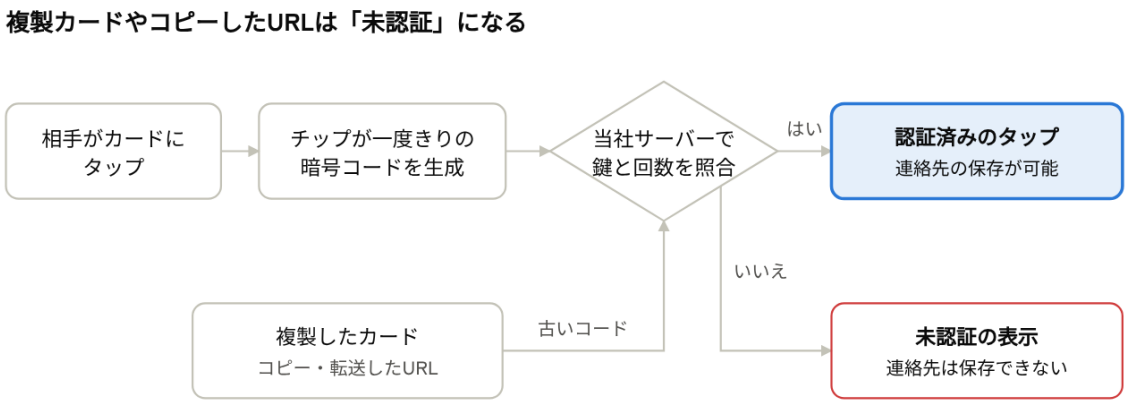


図 4　タップの検証フロー。正規のカードによる新しいタップだけが「認証済み」となり、連絡先の保存に進める

- **タップごとに一度きりの暗号コード：**搭載チップはハードウェア・ソフトウェアともに Common Criteria EAL4 認証を取得しています（注 5）。タップのたびに、AES-128 で暗号化した識別情報と改ざん検知用の署名を含む新しいコードを生成します。



図 5　タップのたびに、チップが一回限りのリンクに署名（回数は毎回増加）

- **複製・再送を無効化：**当社サーバーはカードごとの読み取り回数を照合します。一度使われたコードや、コピー・転送された URL は「未認証の表示」となり、連絡先の保存もできません。



図 6　サーバーが署名と回数を確認。転送されたリンクは保存フォームが表示されない

- **鍵はカードごとに固有：**カードごとの暗号鍵は、当社が管理するマスター鍵からその都度算出し、データベースには保存しません。工場出荷時の初期鍵も変更するため、第三者がカードを書き換えることはできません。
- **カードに個人情報を持たない：**チップに記録されるのはアクセス先と暗号コードのみです。紛失時は保有者が即時に無効化できます。
- **本人の同意を前提とした情報の流れ：**表示する項目は保有者本人が選びます。相手の連絡先は、相手の同意とその日時を記録した場合にのみ保存されます。閲覧者の IP アドレスは保存しません。



図 7　表示項目は保有者が共有設定で選択。カード自体に個人情報は入っていない

暗号処理は、NXP 社が公開する技術資料の参照値と、当社が別途用意した独立実装の両方で照合し、一致を確認しています。

4. Certus IQ との相乗効果

カードが「相手が本物か」を保証し、Certus IQ が「その人の実績が本物か」を保証します。どちらか一方では完結しない信頼を、一度のタップでつなぎます。

観点	従来の名刺・SNS	Certus IQ ＋ 本カード
相手が本物か	確認できない（複製・偽造が容易）	暗号コードで正規のカードと登録済みアカウントを照合
経歴が本物か	自己申告のみ	5 段階の検証レベル付きの実績をその場で表示
出会いの記録	手作業で入力、または紛失	日時・イベント・同意履歴とともに CRM に自動記録
まだ利用していない相手	接点が途切れる	その場で Certus IQ のプロフィール作成へ案内

- **オンラインと対面で一貫したなりすまし対策：**Certus IQ はスカウトメールの送信元ドメインと認証結果（SPF・DKIM・DMARC）を表示し、偽の勧誘を見分ける材料を提供しています。本カードは、その保護をカンファレンスや商談など対面の場に広げます。
- **出会いがそのまま信頼データに：**検証されたタップは「いつ、どこで、誰と対面したか」を改ざんできない形で残します。将来的には、この対面の履歴を推薦や実績確認の補助情報として活用することを検討しています。
- **利用者が利用者を呼ぶ獲得チャネル：**カード保有者が人に会うたびに、相手は Certus IQ に触れます。広告に頼らず、セキュリティ・Web3 の専門人材が集まる場で信頼できる紹介経路を築きます。タップ経由の登録は個別に計測します。



図 8　一回のタップが、ネットワークを広げる

- **ソフトウェアの継続利用を促す：**カードの価値は、掲載される Certus IQ 上の検証済み実績に比例します。保有者が実績を充実させるほど名刺の説得力が高まるため、プロフィールの更新と継続利用の動機になります。



図 9　出会いが資産になる。対面の接点が Certus IQ 上の記録と実績につながる

5. 今後の展開

安全性と利用体験を検証しながら、段階的に対象を広げます。

1. **試験運用（2026 年 11 月〜）**：当社担当者がカンファレンス等で使用し、タップ数、連絡先の保存率、Certus IQ への登録数を計測します。
2. **初期配布（2026 年 12 月期中【予定】）**：Certus IQ のベータ利用者や提携先など、約 30 名に配布します。
3. **拡大（2027 年 12 月期【予定】）**：Certus IQ 利用者への提供拡大や、業界イベントとの連携を検討します。対面での履歴を活用した新機能も、利用状況を踏まえて順次検討します。

6. 今後の見通し

本件が当社の 2026 年 12 月期の業績に与える影響は軽微であると見込んでおります。今後、開示すべき事項が生じた場合には、速やかにお知らせいたします。

本資料に記載の将来に関する記述は、作成時点で当社が入手した情報および合理的と判断する前提に基づくものであり、その実現を約束するものではありません。実際の結果は、市場環境、関係法令、競合状況等により大きく異なる可能性があります。

※ 掲載画像は紹介動画からの抜粋で、開発中のイメージです。氏名等は架空のものであり、実際の画面とは異なる場合があります。

注（出典）

注1　CertiK「Hack3d: H1 2026 Report」。割合は同レポートの金額から当社算出。

注2　The Block「Crypto hacks hit record high in H1 2026 as losses top $1 billion, Blockaid says」

注3　Holland & Knight「How North Korea Turns Job Interviews into Cyber Traps」（2026 年 10 月 4 日、VOA 記事の紹介）

注4　トレンドマイクロ プレスリリース（2026 年 2 月 13 日）

注5　NXP Semiconductors「NTAG 424 DNA」製品ページ。NTAG は NXP B.V.の商標です。

■株式会社 enish（エニッシュ） http://www.enish.com
enish では、Link with Fun というスローガンのもと、「世界中に enish ファンを作り出す」ことをミッションとして掲げ、より多くのお客様に楽しんでいただけるよう魅力的なサービスの提供に取り組んでまいります。

所在地：東京都港区六本木 6-1-20 六本木電気ビルディング 4F
設立：2009 年 2 月 24 日
代表取締役社長：安徳 孝平
［本件に関するお問い合わせ先］
株式会社 enish IR 担当
E-Mail: ir@enish.com

※ enish、enish ロゴは株式会社 enish の商標または登録商標です。その他のすべての商標は、それぞれの所有者に帰属します。
※ プレスリリースに記載された内容は発表日現在のものです。その後予告なしに変更されることがあります。